

本学における 教学IR

IR室

2024年7月4日

■本学における教学IR組織の概要

本学においてはIR室にて、教学IRに関する活動を実施している。
IR室は、本学内外の様々な情報の収集及び分析等を行い、本学の戦略的な大学運営の意思決定、推進及び改善を支援するための組織で、以下の(1)～(6)の業務を行っている。

- (1) 大学運営の意思決定、推進及び改善に係る情報の収集及び分析に関すること。
- (2) 教育及び学習支援における情報の分析に関すること。
- (3) 本学の活動の点検・評価等に係る情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 大学内組織の活動における情報分析の支援に関すること。
- (5) 定期的にIR機能強化に資する研究を受講すること
- (6) その他、経営会議からの諮問事項に関すること。

教学IRにおいては、主に業務(2)が主体となる。

また、単科大学である特徴も活かし、各種委員会や事務(教務委員会、学生支援委員会、学部入学試験委員会など)といった学内組織と共同し、データの収集・提供・分析・結果の検討を行うことで、教学改善へとつなげてもいる。

■ 教学IRに関する活動内容例(予定・継続も含む)

(1)学修成果・教育成果の把握・可視化

＜教務委員会, ICT推進会議＞

- ・科目間の成績評価基準の平準化
- ・デジタル教科書導入による学修・教育成果の把握・評価

など

(2)入学選抜における情報[受験形態, 成績など]と入学後の情報[成績など]の関連性の検証

＜学部入学試験委員会, 教務委員会＞

- ・入学選抜における成績と入学後の成績, 入学選抜別による入学後の成績の推移など多角的に検討

など

■ 成果の一事例[継続中]

● 科目間の成績評価基準の平準化(教務委員会との共同実施)

本学では成績評価の平準化および評価の改善のために、2021年度後期より、各科目で「**学生がとることが望ましい点数(想定点)**」を設定している。

看護職を育成する大学ということもあり、想定点は看護専門科目で基礎科目よりも高めであるという特徴がみられたり、学年や科目によるバラツキがみられたりした。これらの特徴や傾向と本学の成績評価基準について、教員への共有を重ねていくことにより、現在、学年や科目内容といった性質を踏まえたうえでの想定点が定まりつつある状況である。

また、この想定点は成績評価の基準となることから、2024年度からはシラバスに明記し、学生にも学修時の到達目標の1つとして捉えてもらえるようにしている。

表：想定点の変化の一例(数値は科目数)

	2021年度後期			2023年度後期		
想定点	基礎	看護	→	想定点	基礎	看護
70～74点	5	2		70～74点	4	1
75～79点	2	8		75～79点	5	9
80点以上	5	23		80点以上	0	22